

連合町内会活動報告

町民運動会を終えて

深町連合町内会
体育部長 法代地功一

五月二十日(日)、天候も気持ち良い晴天となり、午前小学校運動会、午後町民運動会を行いました。児童も午前の疲れも見せず、そのパワーには圧倒されました。「ゲートボール・グラウンドゴルフ競争」に先生も参加して頂き、かなり苦戦されていた場面もありました。恒例の「アメ食い競争」では、水に顔をつけるところから熱戦が始まり、粉が一杯についた顔で笑いをとりながらカメラに収まりました。最後の種目「親子リレー」では、今年も子供たちが勝利しました。競技の前に親子の自己紹介をして行い、リレーでは素足で走られる母親もおられる熱戦で応援する側も力が入る大きな声援となり、負けても勝っても皆笑顔で終わりました。



小さなお子様からシニアまで、また外国の英語の先生(ALT教員)も積極的に参加してください。深町の新しい町民運動会であったと思います。

町民の皆様には、大きな声援を送って頂くと共に、多数のプログラムに出場していただき、スムーズに進行ができましたこと、早朝からの準備、進行、片付けなど、一丸となってご協力を頂き、無事終了出来たことに感謝いたします。

深町子どもを守る会 子どもをみんなで見守りましょ。



深小の子供は

○午後四時過ぎに下校します。

※日によって、異なることがあります。

○近くで、遠くで、みんなで見守りましょ。

○あいさつ
声かけをましょ。

深小だよ

主体的な学びを求めて

三原市立深小学校
校長 松島 恵子

「なぞはとけたぞ。」これは、ある日の二年生の授業での子どものつぶやきですが、このつぶやきの二十分ほど前のこと。

「ねえ、みんな。夏の野菜を育てて、野菜ピザを作って食べるんだってですよ。そのために、野菜作り名人の岡本さんにアドバイスをいただきながら話し合っ、何の野菜を育てるか決めましたね。そして、決めたのは、オクラ、ピーマン、ミニトマト。」と、実を提示した先生が、「そこで先生はさっそくオクラ、ピーマン、ミニトマトの苗を買ってきまして。」と、苗の入った箱を教室に置くやいなや、前のめりになる子どもたち。子どもたちが注目する中、箱のふたを開けた先生から驚きの言葉。「わあ、どうしよう。大変なことになった。どれがどの苗かわからなくなっちゃったよ。」

「ええっ。」「みんな、どうしたらいいかなあ。」よく見て比べてたどれがどの苗か分かるんじゃない。「そうか。よし、じゃあ今日は、オクラ、ピーマン、ミニトマトの苗を観察して比べてみましょうか。」「やったあ。」「どうやってくらべましょかね。」「これまでも観察する時に使っていた目や手や鼻で比べるといいと思います。」あつという間に本時の学習のめあてができあがりまりました。グループに野菜の苗の箱が配られると、もうそこから子どもたちは色、形、大きさ、手触り、においなど見つけたことを互いに言いあい、聞きあいながら、「これはきつとオクラよ。だって、はっぱの色がうすいもん。」「そっかあ、あつ、でも見て。このはっぱの間の小さいのってピーマンの実に似てない？」子どもたちは気をそらすことなく熱心に集中して観察を続け、見つけたことを発表して表に整理していく中、冒頭の「なぞはとけたぞ。」のつぶやきとなったのでした。



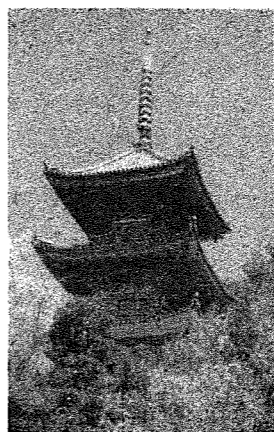
今、教師起点の受動的な浅い学びではなく、学習者起点の能動的な深い学びへの変革が求められています。深小学校でも、子どもたちが自ら課題を見つけ、課題解決に向けて主体的、対話的に探究していく、「なぞはとけたぞ。」とつづいていきます。

「ふかまのまど」ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

「歩く会」に参加して 瀬戸田の子どもが道案内

上組 紙谷 謹一

「歩く会」では四月三日に、十一人の参加で瀬戸田町耕三寺周辺を探索しました。三人は耕三寺へ参拝し、他の八人は国宝向上寺三重塔等のお寺を参拝しました。向上寺三重塔へむかっている途中、桜の木の下で遊んでいた明るく元気な子供さん三人(新一年生になる男児二人、女児一人)がハキとした口調で色々な説明を内してくれました。



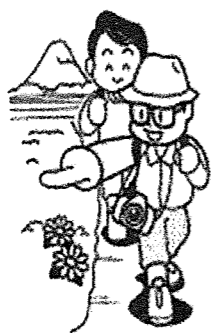
感心した私はこのことをハガキに簡単に書いて、瀬戸田小学校の校長先生に報告しました。間もなく、同校の土居(旧姓・森)誠子校長先生から手紙をいただきました。その手紙の一部は次のような内容です。「本校にとつても元氣の出るお葉書有難うございました。あまりのうれしさに入學式の式辞で披露し会場の皆で喜び合いました。」

昭和五十四年私教員初の仕事は、深小学校でして、大変懐かしかったです。とても素直で頑張り子ども達に支えられていたことを思い出しました。地域に支えられた素敵な学校でした。これも何かの縁でしょう。町内の皆様にも宜しくお伝え下さい。

歩く会に参加を

歩く会幹事 石井 堂照

三原 沼田川
三原大橋〜定屋大橋



月日 六月五日(火)
予備日 六月八日(金)

行程
八時 三〇分 深町上組公民館発(車)
九時 〇〇分 三原大橋へ探訪開始
十一時三〇分 探訪終了 昼食
十三時〇〇分 深町上組公民館着(車)

ニチエー中之町店でのコミュニティボックスに、ご協力いただき、大変ありがとうございます。

謹んでお悔やみ申し上げます

山垣内信子様 八十五歳
(中組 千川講) 五月十五日

深町各種団体六月行事予定

- ◆連合町内会
- ▼ゲートボール大会 一〇日
- ◆上組町内会
- ▼公民館横草刈り 一〇日
- ◆小学校
- ▼修学旅行 PTA役員会 一日
- ▼水辺教室 委員会活動 四日
- ▼交通安全教室 七日
- ▼プール開始 一日
- ▼放課後子ども教室 一四日
- ▼太鼓コンサート 一八日
- ▼廃品回収 二四日
- ▼揮毫展(ライズ訪問 三・四年) クラブ活動 二五日
- ◆参観日 地域懇談会 二七日
- ◆如水館中学・高校
- ▼英語検定 一日
- ▼振興会総会 八日
- ▼漢字検定 一五日
- ▼オーブンスクール 一七日
- ▼高二学校見学会 二〇日

町内の皆様へ

ニチエー中之町店レシート 投函について

深町太鼓踊り保存会 会長 西本 薫

以前にも、ニチエー中之町店様から買物レシート投函場ボックスを利用して頂いたことがありますが、今年度も、レシート投函ボックス利用のお誘いがあり五月から利用させて頂くことになりました。

ニチエー中之町店入口に太鼓踊り保存会メンバーが写った写真のボックスがあります。お買物をされてお帰りの際は、御手数ですがレシートを投函頂くようお願いいたします。

TBG協会だより

第七十八回三原市 ターゲット・バードゴルフ大会

第七十八回三原市TBG月例会が四月二十二日(日)深町・城山コースにて行われました。



成績は次の通りです。

- 一位 金子 勝彦
- 二位 藤岡 正勝
- 三位 井上 幸子
- ベスグロ六十八 金子 勝彦
- 二人組戦 船本 雄三
- 一位 藤田千代子

大会終了後町民会館にて総会を行いました。次回大会は、六月十七日(日)に実施します。

※選手の敬称略
TBG事務局 天木 雅之

如水館中等学校だより

中学校での目標

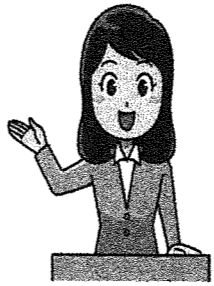
如水館中学校 一年 藤井 由香莉

小学校での友達とも別れ、新しい環境で中学校生活がスタートしました。

まず一番に実行したいことは、友達をつくることです。自分から恥ずかしながら積極的に声をかけて、みんなと仲良く過ごしたいです。

如水館中学校に行きたいと思った理由である、勉強をがんばりたいです。小学校の先生になることが私の夢だからです。そのために常に意欲的になり、レベルの高い環境である如水館でたくさんの方々と挑戦し、基そ学力を身につけたいと思います。

また、自分の長所である「何事も諦めずに最後までやりきるところ」をさらに伸ばしていきたいです。



中学校でがんばりたいこと

如水館中学校 一年 島村 凜美

私の中学校での目標は、勉強と部活動を両立すること、友達をたくさんつくることです。

中学生になり、勉強も小学校にくらべて、どんどん難しくなりました。わからないところもたくさん出てくると思います。先生に質問したり、友達をたくさんつづけて勉強をわかるようになりたいです。勉強は特に英語をがんばりたいです。如水館では外国人の先生との授業が週に四時間あります。たくさん英語で会話して、英語の力を身につけたいです。

そして、私は身体を動かしたり、踊ったりすることが好きなので、ダンス部に入ろうと思っています。



町内の各種団体等の代表者は次の方々です

(六月現在)

- 連合町内会会長 力石 秀喜
上組町内会会長 法代 功一
中組町内会会長 力石 秀喜
下組町内会会長 石井 張司
町民会館館長 力石 秀喜
農業利用最適化推進委員 為清 敏治
水利組合長 林 真太雄
深小PTA会長 船本 恵子
如水館中学高校校長 江口 史憲
サンライズ大池施設長 河野 芳満
消防団深町分団長 渡辺 文雄
尚寿会会長 原 強介
女性会会長 村上 孝吉
はなみずきの会支部長 松尾 貞美
壮青会会長 西本 義昭
子ども会会長 八木 秀樹
三原市TBG協会会長 谷岡 義昭

深小今昔ものがたり(八)
「新校舎で」

尾道市美ノ郷町 石井 哲代

昭和二十九年二月に新校舎が出来上がりました。

昭和二十九年二月撮影



正面より見た深小校舎

立派な二階建てです。一階の東側から理科室、準備室、職員室、玄関と階段、校長室、保健室、一年生、二階東から六年生、五年生、図書室、玄関の上に販売部。校長室の上が四年生、続いて三年生、二年生教室だったので、二年生校舎の東側には鉄製の非常階段がありました。五、六年生は休憩時間になると、そこからはだして、トントン降りて遊んでおりました。授業始めの鐘が鳴ると傍の水道でチョコチョコ足を洗う。濡らして、びしょ濡のまま鉄の階段を昇り、廊下にある雑巾でパタパタ拭いて教室へ。夏は良いけど、冬は凍みて冷たいだろうに、年中それだったと思います。冬場は席についても暫く脚をこすっていましたね。

校舎の前に、校舎を引き立てるように立派な庭木が植えられました。手島政生校長先生が町内をまわられて「これは良い。」と思われ、たらの家の方と、交渉。「家の人も学校の為だからと、快く無償で下さった。」と、うれしそうに、自慢しておられました。

校舎を一段とひき立て、子供に優しさと安らぎを与えてくれる庭木です。落成式には、子供の作品を各教室に、廊下に、いっぱい展示しました。

お母さん達も練習の成果をと、玄関は勿論二階の廊下の窓側に、いっぱい花を活けられました。迎も美しく賑やかな新しい校舎の落成でした。

深町の植物

力石 卓夫(三原市宗郷)

《ヨウシュヤマゴボウ》



在来種にゴボウによく似たヤマゴボウ(山牛蒡)という植物がある。ヨウシュヤマゴボウ(洋種山牛蒡)は、ヤマゴボウによく似た北米原産の植物ということから名づけられたもの。

※六月十九日撮影

『栢本郡代 石原太郎左衛門之事』

第五回

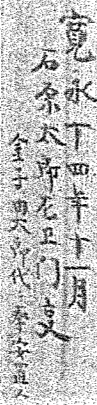
寛永十五年(一六三八)二月二十七日、天草四郎が立籠る原城への総攻撃が始まるが、この時石原太郎左衛門の長男八兵衛が参戦している。天草一揆書上 125 山路三太夫の書上に、

②一、同廿七日、二ノ丸へ人なミニ乗申候、其より本丸石垣南ノ方塀二つき候事、石原八兵衛・拙者同前二着申候。兩人より先二つき申候者人も無御座候。右之儀石原八兵衛、御暇被遺候。柳本五郎左衛門二申達候事。

とある事から、寺沢藩士の中で本丸に一番乗りに近い活躍をしたのであろうか、「八兵衛が『御暇』すなわち解雇されたので、その活躍(手柄)を証明する者が居ない。それで柳本五郎左衛門に話して置いた。」と山路三太夫が記述している。これ以降、石原太郎左衛門の消息は消える。何故、石原家は寺沢氏に改易されたのであろうか。他藩に仕官する道もあり、寺沢家断絶後に職を失った者の中には、三宅藤兵衛の子息は細川家に仕官するなどの例は多いが、仕官の形跡は見えない。改易の理由として考えられるのは、

- ①天草でのキリシタン立帰りの中心である上島の支配者でありながら、有効な手段を取らず、大きな一揆へ発展した責任を取らされた。
②天草キリシタンのリーダーである渡辺小左衛門との関係が問題とされた。
③一揆への行動や態度が、問題となつた。
④乱終結後、寺沢堅高は天草の地を「召上」された事で、天草の地侍の太郎左衛門も「暇」を出された。

これらは筆者の推定である。それとも、戦に無情を感じ、自から辞して帰農の道を選んだのであるうか。石原太郎左衛門の子孫とされる金子家の墓石の戒名塔に、石原太郎左衛門(栄昌院誓忠安樂法居士)寛永十四年十一月とある。これが事実であれば、同年十一月十四日に太郎左衛門は御所浦へ避難したとされるのでそれ以後の死亡となるのだが。



寛永十四年十一月
石原太郎左衛門(法名)
金子家墓石

※唐津藩主寺沢堅高の命により、「新知行宛行い」の為、『乱』関係で出陣した藩士の行動を報告させたもの。
※幕府は、寛永十五年四月四日、天草を取り上げる。

執筆 鶴田 耕治
発行 金子みち子
(次号へ続く)

高齢者相談センター

どりいむだより

電話 六一一四四一〇

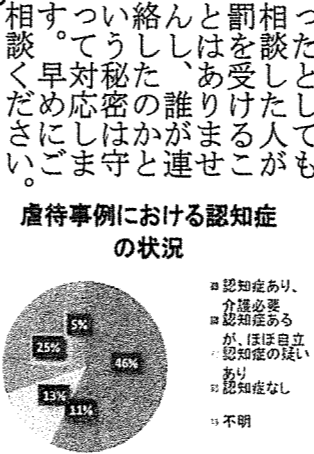
高齢者虐待について



○高齢者虐待とは
高齢者虐待防止法という法律では、新聞やテレビのニュースで見聞きする深刻なものだけでなく、日常的にありがちなものも虐待と定められています。

「身体的虐待」叩く、つねる、蹴る、やけどさせる、体を縛り付けるなど
「介護や世話の放棄・放任」食事や水分を与えない、病院に掛らせないなど
「心理的虐待」怒鳴る、悪口を言う、無視するなど
「性的虐待」わいせつな行為をすること、またさせること
「経済的虐待」生活に必要なお金を渡さないなど

○高齢者虐待に気づいたとき
高齢者虐待は、介護疲れやストレス、経済的困窮、認知症、元々の家族関係の悪さなど、原因は様々です。深刻な状況になる前に気づき、対処する事が一番大切です。高齢者相談センターが虐待の相談窓口になっていきます。もし虐待でなかつたとしても相談した人が罰を受けることはありません。誰か連絡したのかと調べて対応します。早めにご相談ください。



地域包括ケアシステムについて

○少子高齢化の進行と介護給付費の増大
少子高齢化の進行とともに、介護の担い手となる若い人の人口は減少し、高齢者、特に、七十五歳以上の後期高齢者が人口に占める割合が高くなる一方です。さらに核家族化が進み、その結果、介護保険の認定を受け、介護サービスを利用する人が増加しています。

○「地域包括ケアシステム」とは
住み慣れた地域で生活できるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組みを地域包括ケアシステムといいますが、構築が全国各地で進められています。

三原市でも、平成二十九年度から介護予防・日常生活支援総合事業がスタートしています。これは、介護保険の「要支援一・二」の認定を受けた人のサービス利用の仕方を見直し、一人ひとりが意識して介護予防に取り組むとともに、日常的な生活の支援はより積極的に地域の互助の力を活用していくことに重点が置かれています。地域包括ケアシステムの実現のためには、従来の介護保険で利用できるサービスのみならず、地域で元気に活動している高齢者が生活支援の担い手として力を発揮することが期待されています。
ちよつとした困りごとは、まずは身近な地域の中でお互いを見守りながら、助け合いの中で解決できる仕組みづくりが求められています。また、元気を維持していくために、近所さん同士で声を掛け合い、体を動かしたり顔を合わせる場づくりも大切です。
そういつた取り組みができるよう、高齢者相談センターも地域の皆様と一緒に考えたいと思います。